

## 【クリスマスの喜び】

クリスマスはご存知の通りイエス・キリストの誕生を祝う祭りです。キリスト(救い主の意)の誕生した年を元年として歴史を数える西暦で今年が2008年です。キリストは2008年前に誕生したことになりますが、正確な誕生年月日はよく分かっていません。場所は今のイスラエルの小さな田舎町ベツレヘムの家畜小屋でした。

ベツレヘムの野原で、夜通し羊の群れの番をしていた貧しい羊飼いたちが、天使から救い主の誕生を告げられました。「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである」

飼葉桶の中に寝かされている乳飲み子なのですから、母親は家畜小屋で出産したのでしょう。戦乱の巷ならいざ知らず、家畜小屋で生まれる子など滅多にいません。それなのにこの最も貧しいイエスの誕生が、2000年の昔から世界中で祝われてきました。ですからクリスマスのテーマは貧しさです。



60数年前の敗戦当時を思い起こすことがあります。貧しく惨めでした。皆で必死に働いて、国が復興しました。暮らしが豊かになり、身の回りがきれいに整って来るにつれて、私たちは貧しくなること、汚くなることに、嫌悪感を覚えるようになりました。いじめも「汚い」「くさい」「バイキン」等という言葉の暴力から始まりました。

皆が持っている物を持たないことが惨めに思えて、流行に振り回されます。より便利で性能の優れた物を求める態度が、人間に対しても向けられて、より優れた人材が求められ、能率の上がない人間は、劣っていると切り捨てられる風潮が広まりました。

子どもたちも、勉強して良い成績を上げないと取り残されてしまいます。社会から見捨てられてしまったら、貧しくなります。惨めで不幸になることを恐れて、親は子どもたちを追い立ててしまいます。

ところが不衛生な家畜小屋の汚い飼葉桶に寝かされた赤ん坊のイエス・キリストは、最も低い貧しさから人生を出発したのに、あのように優しく、愛と叡智に満ちた人格を備えたお方へと成長されました。そして貧しい者、弱い者と共に生きて下さいました。

それが支配者、権力者に恐れられ、社会秩序を破壊する危険人物として、十字架刑にされて

しまいました。最も惨めな死に方です。でもイエス・キリストが身をもって示された、命を投げ出して弱い者に仕えていく愛は、2000年を経た今日でも、世界の多くの人々に、感動と勇気を与え続けています。

出身地で住民登録をせよとの政府の命令で、宿屋はどこも満員、ヨセフとマリアは家畜小屋で出産する破目になりました。マリアは不安にかられたことでしょう。ヨセフはいてもたっても居れない怒りを募らせたことでしょう。しかしクリスマスの賛美歌「きよしこの夜」はこう歌います。「救いの御子は まぶねの中に眠りたもういと安く」



「御子の笑みに 恵みの御代の あしたの光 輝けり  
ほがらかに」  
汚い飼葉桶のベットでも、イエス・キリストは笑顔を見せて、安らかに眠っています。豊かな恵みと希望の光が輝きますという歌です。

ある人がマザーテレサに質問しました。「なぜ神さまは、こんな貧しさがあるのをお許しになったのでしょうか。」「このような貧しさは、神さまがおつくりになったものではありません。私たち人間が作り出したのです。私たちが分け合わないからです。私たちの責任です。」

アメリカの金融破たんから始まった経済危機の嵐が、世界を襲っています。日本でも企業の経営悪化で、大量の人員整理が始まりました。職を失う人が日ごとに増えています。貧しさを余儀なくされる人が増えていくのです。定額給付金の支給よりも、失業者を出さない雇用対策や福祉に2兆円を使ってもらいたいですね。私たちも助け合うために、少しでも募金に応じたいですね。

神さまは救い主を、汚い飼葉桶をベットに誕生させました。貧しさを厭わない救い主、貧しさを平安と喜びに変えて、明日の希望を輝かせてくださる救い主です。私たちが貧しくなることを憂い、沈み込む時に、横に寄り添って「大丈夫」と支えてくださる救い主です。

貧しくても、子どもは健やかに育つのです。貧しくても、平和の光に包まれた和やかな家庭を作れるのです。むしろ富や力が私たちに自己中心にし、不幸にしていく場合の方が多いのです。大事なものは、いたわり合い助け合う愛の豊かさではないでしょうか。

わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。 (聖書)